

算数科教科書における助数詞について

— 明治前期(四)・明治中期(一) —

On the classifier in arithmetic textbooks

— the early period (4)・the middle period (1) in the Meiji era —

三 保 忠 夫

TADA0 MIHO

前稿に続き、「算数」科教科書における助数詞について検討する。紙面が限られているので、各用例の解説は多く省略する。

〔資料〕

本稿に用いる資料は、『日本教科書大系近代編』(石川謙編、講談社刊)の『第十一巻 算数(二)』、『第十二巻 算数(三)』に収める左記である。これらの内、①と②とは、近代教科書史上、その(一)届出制・許可制の時代(明治前期)に、また、③、④は、その(二)文部大臣の検定を受けた時代(明治中期)に、それぞれ属するものである。同書の「解題」から若干のところを抄出する。

① 初等小学^算算教授書(千葉公胤著)(第十一巻、五八五〜六七五頁)
小学校初等科・中等科における算と珠算(算)の併用を認めた明治十四年の「小学校教則綱領」により、当時、新しく、筆珠兼用の教科書が幾点か出版された。本書は、その内の一点で、十編五巻からなり、

「教育実践研究指導センター紀要八 一九九七」

別に算の答式・算の解式各一冊がある。巻一・二は明治十五年六月巻三・四・五は同年十月、答式・解式は同年十二月、東京普及舎にて出版。身辺の日常的、現実的な「実物」を念頭においた、実物直観主義的筆珠兼用教科書である。学年の進むに従って程度を高め、段階的に配列し、教育的意図をもって編集されている点、当時の注目すべき算数教科書の一つであるとされる。

② 小学初算^算算実物教授本(山田正一著)(第十一巻、六七七〜七〇六頁)
明治十四年の「小学校教則綱領」には、第一学年で「実物の計方」、「実物の加減乗除」を授けることとしている。本書は、これに準拠して、専ら実物によって計算を授けるために編集した算数教科書である。但し、著述ではなく、欧米の教科書の翻訳、編集になるものらしい。上下二巻で、その前期・後期に各一冊を配当する。明治十六年九月、京都福井源次郎(正宝堂)出版。文中に多くの絵を用い、また、やさしく解説して

いる。実物による直観主義の数学教育思想を取り入れ、「小学校教則綱領」に基く実物算の教科書を、第二学年以上の筆算、および、珠算の教科書とは区別して、特別に編集したところに本書の意義があるとされる。なお、本書は、その下巻の原本を見ず、『日本教科書大系』には上巻のみを収録したとある。

⑲ 小学尋常科筆算書（中條澄清著）（第十二巻、五〇一―一頁）

明治二十年代の前半、検定時代初期の小学校筆算教科書で、明治二十年九月に初版、翌年三月に訂正版、同月文部省検定合格。明治十九年の「小学校令」、及び、同年十二月の文部省令第二十五号に準拠して編集されている。児童の身近な石、果物、貨幣などの「実物」をもって数観念を啓発しよう工夫されている。

⑳ 尋常科筆算教科書（竹貫登代多著）（第十二巻、一一三―一三四頁）

㉑ 高等筆算教科書（同 著）（第十二巻、二三五―三三三頁）

これらは明治二十四年（一八九二）の「小学校教則大綱」に準拠して編集された、検定時代中期を代表する教科書で、前者三巻は、同二十六年三月初版、後再版、同年十二月文部省検定済。後者四巻（四冊本）は、同二十七年三月初版、同七月訂正再版、同月検定済（教科書大系には巻一・二を収録）。

前者は、計算に習熟させ、計算能力を高めること、数量概念の取扱いを等を通じて「思想ヲ精密ニシ」、思考力を涵養すること、度量衡、貨幣、その他の諸等数など、日常生活に必要な知識を授けることといった目標のもとに編纂され、読書科（国語科）との関連も考慮されている。

後者は、前者以上に程度の高い教材を用い、また、数の性質、比例など、新しい題材を取り上げている。

（用例の収集）

⑳ 初等小学筆算教授書（千葉公胤著）（第十一巻、五八五―六七五頁）
本書には、単位と共に、助数詞がよく用いられているが、これに先立ち、基本的な「（一）実物の数へ方」（第一編）として「つ」を教える。例えば、次のようである。

（一）「筆一本をとり」これはなにになりや　○これは幾つなりや
○一つとは二つより多きかすくなきか　○汝試みにゆび一つをかゞめ見よ。

こうして「つ」を教えた後、助数詞を教える。

（十二）「生徒八人を示し」これはいくつ　○八つと云はずして今一つ云ひかたなきや　○八と云はずして人を数ふるとき八の下に添ふべき辞あり汝これを知るか　○然らば八つの人は何と云ふや

（十三）*「六羽を画き」これはいくつ　○六つと云はずして今一つ云ひかたなきか　○六と称へずして鳥を数ふるとき六の下に添ふべき辞あり汝これを知るや　○然らば六つの鳥は何と数ふるや　（三保注・*部に鳥の絵がある）

一本、二枚、三杯、四把、五挺、等の数名は此の例にて授くべし

「つ」は、指数器の類、算盤の類、石、小樹、皿、茶碗、本、布、銅貨ボタン、柿、卵、花、物、道のり、その他を広く数えている。

以下に、本書に見える助数詞を挙げる。年月日や年齢（歳・才）、及び、度量衡などに関わるものは省略する。なお、他書に見える「具」「口」「張」「折」「連」等は見えていない。

「一」↓「挺」

○ 墨と朱合せて五百六十丁あり内二百九十八丁は朱なり墨如何
〔人〕○ 太郎、次郎、三郎、松、竹、梅の生徒を合せて幾人いくちなるや

○ 人十二万七千六百二十九人

第一例だけは「たり」の用例であるが、他はすべて字音語のようである。その用例は多く、人口、人、生徒、児童、小児、留学生、家族、見物人、客、石工、土工、工夫、人夫、大工、商人、筆工、機女、小作人、漁師、漁夫、船人、木挽、(猪狩の)人、株主、官員、留学生、巡查、兵、兵士、将官、士官、歩兵、騎兵、砲兵、工兵、輜重兵、雜使、勇士、医者、死人、傷者、病人、その他を対象として使用されている。

〔体〕↓〔體〕

○ 三十三間堂の佛の数は三十三万三千三百三十三体なり……

「三十三体の佛体あり」とも見える。佛像の数を数える。

〔倍〕○ 其の三つの二倍は幾個なるや

〔俵〕○ 米八百五十七万五千四百五十九俵

米、麦、豆、大豆、小豆、菜種、炭、鹽・塩、塩、昆布に用いる。

〔個〕↓〔箇〕

○ 果九千百十七個

指数器の顆、(三角形の個数)、(図形の)○・△、某数、甲・乙の数、物数、区画、小石、石、球、毬、砲丸、銀玉、墨、ランプ、箱、千両箱、壺、樽、ざる、金囊、(米の)袋、柿、栗、梨、梨子、林檎、橙、桃、蜜柑、(梅の)実、(杏の)実、(棗の)実、(松の)実、(馬鈴薯の)子薯、鶏卵、蛤、鰻頭、漬物、筏、盆池、等を数える。

「十四かの杏を三児に分つに」(六七四頁)との例(一例)からすれば、
〔個〕は「か」を表記したものらしい。

〔冊〕○ 本万冊

書物、書籍、書、本、帳面、習字手本、を数える。

〔包〕○ 一包百二十一本人入りの蠟燭十二万二千二百包を……

この他、彈藥、鰻頭、紙幣、を「包」で数える。

〔函〕○ 火寸九十八函あり一函に入る、火寸の本数は函数と……

〔切〕○ 香物九十一切あり之を七つ皿に盛るときは……

〔匹〕↓〔尾〕〔羽〕〔頭〕

仮名書きで「ひき」と見えることも多い。「九十九万七千二十二匹の鳥獸虫魚を食へりと云ふ」(六六五頁)と見えるように、鳥類、動物や昆虫、魚類を対象として用いられている。

○ 鳩一匹に豆六十七粒を与ふ三百六十匹には何粒を与ふるや

○ 雞若干匹あり雞三十六匹を髡へせり……

この他、小鳥、鳥を対象とする用例もある。

○ 農夫あり一匹三十五円の牛と一匹四十五円の馬と一匹二十五

円の羊とを買ひ 其の後馬は……

○ 兎十匹と麦一石と価相等しきとき……

牛馬、牛、馬、羊、犬、狸、猿、鼠、蠅、蝗、蟻、羽蟻、も同様。

魚類では、魚、鮒、鯉、鰻、鯰、鯉、大鯰、小鯰、たち魚、金魚、白魚、いわし、さんま、青串魚、かれい、いな、また、海老、章魚、烏賊、鯨、を「匹」で数える。

○ 漁夫あり沖に出で鯛廿枚鰈七枚章魚二十匹き烏賊十五匹きを
得たりと云ふ此の魚合て何びきなるや

○ 蛸三千二百びきありこれを六千五百五十びきとせんには……

○ 千匹連れの鯨は九千七百六十二丈一尺の海に亘ると云ふ……

なお、「縮緬九千六百四十二匹を」との例は単位として扱ふ。

〔巻〕○ 二十一史は約二千五百五十巻あり……

○ 九十六人の商賈、共に羅紗千四百十四巻を買へり但一卷の長は二十三丈五尺六寸宛なり然らば每人幾尺宛を分け取るべきや書籍、羅紗を対象とする。

〔句〕○ 六枚折の屏風あり七言絶句一句づゝ書するとき字數幾字……

〔名〕○ 生徒七十五名ある学校あり……

教室内の生徒の數を数えるが、「名」の用例はいたって少ない。

〔回〕○ ……百までの教授法を幾回も重ねて授くるなり

○ 九十六回往復すれば其の路程十二里あり……

第一例には「たび」との傍訓があるが、この他の読み方は、正確にはわからない。指数器の顆を数える回数、石筆で塗却する回数、画いた壺に点を打って循環する回数、晴雨の回数、念仏、路程の往復、画いた壺に盤翔する回数、蚤が跳ねる回数、鯿を捕える網の回数を数える。

〔字〕○ 読本一枚の文字は四百四十字あり八十八枚の文字をとふ

〔對〕○ 筆は二本を以て一對となす今四百四十八本の筆を四人の童子に与へんとするには平均一人に付幾對づゝを得るや

〔尾〕↓〔匹〕〔枚〕

○ 網を以て魚を漁するに鯛、鱧、鯿合せて三千二百七十尾を得たり、其の内千五百四十九尾は鯿にて四百八十尾は鱧なり……

この他、魚、鮎を数えるのに「尾」が用いられる。

〔帖〕○ 美濃紙一帖は四十八枚あり然らば六百七十九帖の美濃紙……

〔度〕○ 通常人の一分時間の脈度を平均六十五度とするとき……

この他、車輪の回転數、運ぶ度數、貯金の支払度數、初学読本の紙數

や両手の指を数える度數、初物を食う度數、蝨斯が羽をふるう度數に「度」が用いられる。

〔戸〕○ 東京大川に橋を架するに東詰の千三百五十六戸は毎戸六十八

錢づゝを出金し西詰の二千八百四十戸は七十一錢づゝを……

〔所〕↓〔處〕

○ 或人田地三箇所を一万五千八百五十円に買ひ其の内二ヶ所は各四千九百三十八円を出したり 他の一か所の価を問ふ

道普請、土蔵、米蔵、倉、を数える。

〔把〕○ 一把三十六本束ねの薪四千六百七十五把あり……

薪、線香、大根、干大根、を数える。

〔挺〕↓〔丁〕

○ 墨三万四千五百六十七挺

〔服〕○ 病人七十九服の薬を吞み七円三錢八厘九毛の薬札を払へり……

〔本〕○ 筆二万七十五本

○ 三十七本の馬鈴薯に三千二百十九個の子薯出来たり一本の馬鈴薯に子幾つ出来るや

筆、石筆、白墨、鉛筆、鉄筆、墨、机の足、五徳の足、馬の足、犬の

足、手の指、足の指、目の毛、並木、木、松、松の木、松の枝、松葉、杉、桜、梅、棗、竹、孟宗竹、ま竹、筍、薪、電信柱、杖、はうき、縄

鉄鏈、襷、帯、旗、箸、火ばし、楊枝、小刀、扇子、扇子の骨、線香、蠟燭、大根、干大根、蕪、香の物、菊、蕈、馬鈴薯、を数える。

〔束〕○ 鉛筆三百九十二本あり之を十四本づゝ束にせば何束となるや

○ 八本を以て一束としたる竹七十五束あり……

〔杯〕○ 晝茶を五杯吞み夜三杯を吞む……

〔枚〕○ 衣五千万二十枚

○ ……鯛廿枚蝶七枚……

○ 百七十町の田地を一枚の田四反づゝに区分するときは何枚の田となるや

○ ……退校後毎日四十五枚づゝの背誦をなすと……

この他、紙、白紙、反古紙、半紙、唐紙、雁皮紙、草紙、本、書、書物、読本（の紙数）、背誦（の枚数）、写し物、公債証書、廿銭札、二円札、紙幣、かるた、骨牌、凧、紙袋、襖、蒲団、蓆、衣、衣服、襦袢、石盤、塗板、板、瓦、（杉板の）札、（屏風の折）、（竹の）葉、（筍の）皮、餅、田、鯛、を数える。

〔枝〕○ 小づかい帳を見るに……五銭花一枝……

〔校〕○ 九州に於て公私立中学校の総計は三十六校の八倍なりと……

〔桁〕↓〔聯〕

○ 算盤の顆を貫ぬける竹一本を一聯又一桁と呼ぶなり然らば汝等の今携ふるところの算盤は何聯又何桁なるや

〔桶〕○ 毎桶の目形二十五貫四百六十匁の白砂糖七百八十五桶を……

麦粉、砂糖、白砂糖、漬物、塩、を数える。

〔梱〕○ 鉄筆六百二十四本を十二本づゝ一箱とし十三箱づゝ一梱とすれば惣べて何梱となるや

〔樽〕○ 一樽に一石八斗五升五合の酒を入れる六百三十九樽には何程を入るゝや

〔瓶〕○ 一瓶二十五銭の洋酒二百三十一瓶を以て……

〔疊〕○ ……各座敷の疊数は八疊なり 而して毎家屋の疊の総数は六十四疊なり 然る時は……座敷の数幾間あるや

〔疋〕↓〔匹〕〔頭〕

〔発〕○ 三千四百五十六人の兵士にて八十万八千七百四発の弾丸を發射せり兵士一人の發射するところ何発なるや

〔碗〕○ 一碗の茶碗に飯七百七十八粒を入れる二万三千四百七十二碗には飯幾粒を入れるゝや

〔種〕○ 倉あり米三百五十二石八斗麦六百四十九石五斗大豆八石六斗を入れる此の三種の惣石高をとふ

（指数器の）顆、銅貨、倉の種類を「種」で数える。

〔筋〕○ 千丈の布にて二尺五寸の手拭幾筋を得るや 他にも「手拭一すじ」と見える。

〔箇〕↓〔個〕

○ 一かの掛目九百五十匁づゝの鉄砲九千五百八十四箇あり……

○ 二十八箇の弓の矢を四方と四隅と天上との九かの方角へ均しく放てり一か處へ何本放ちしや

他に、（時計の音）、鶏卵、（白砂糖の）箱、蜜柑、桃などを数える。 右からすれば、「箇」は、「か」を表記したものらしい。

〔筥〕↓〔箱〕

○ 一筥百二十五箇入りの蜜柑六十五筥あり……

蜜柑や金米糖からすると、「筥」「箱」の区別はないようである。

〔箱〕↓〔筥〕

○ 茶商あり八箱の茶を買ひしに一箱毎に四十八斤を……

○ 豆腐五十箱内二十三箱は焼き十六箱は燻げたり残り何程

茶、豆腐、蜜柑、梨、金米糖、生糸、ランプ、ボタン、鉄筆、石筆、摺付木、金箱、を「箱」数える。

〔籃〕○ 三百四十五個の蛤を五籃に入れたり一籃に何程を入るゝや

〔籠〕↓〔籠〕

○ 一籠二百七十三個入りの雞卵五百四籠を四十二人に……

○ 老籠八百七十二箇入の桃三千二百二十五籠を……

〔籠〕〔籠〕の両字を教えようとしたものであろうか。

〔籠〕↓〔籠〕

○ 一籠に青串魚きんま三十匹を入れるゝもの七百六十八籠あり……

蛤、貝、青串魚、柿、の魚介類・果物を数える。

〔粒〕○ 一升の米粒は平均六万四千八百二十七粒あり……

米粒、飯、麦、(鳩や節分の)豆、金米糖を数える。

〔組〕○ 一組の生徒百人づゝある学校に百組あるときは……

〔綴〕○ 爰に五十一枚の紙あり之を三綴にせんには……

〔群〕○ ○此の三群の*を一時に数へ見よ(*部に三個の△印)

〔羽〕↓〔匹〕

○ 鳥九百九十八羽

鳥、小鳥、雀、鳥、鳩、鶏を「羽」、また、「匹」で数える。

〔聯〕↓〔桁〕

○ 其の塗却せし一聯四へ番号を付すべし

石盤上の果実二十八個を四個一聯で消し、番号を付せというもの。

なお、算盤の顆を貫く竹を、「桁」の他、「聯」でも数える。

〔脚〕○ 机三千九百五十三脚と椅子二千七百八十九脚とを合せば如何

〔艘〕○ 二艘の船同處より東西に分れて出帆せしに……

〔苞〕○ 一艘に砂糖三万斤づゝ積む船七百六十五艘入津せり之を一苞
百二十万斤入りの苞となさば幾苞となるや

〔荷〕○ 百荷の砂を甲乙丙丁四人にて運ぶに甲は二十荷乙丙は各甲よ

り二荷少く運びたりと云ふ丙は何荷運びしや

○ 一箱にランプ七十九個づゝを入れるゝ荷物四百二十一荷あり……

〔葉〕○ 五本の松の樹あり第一の木の葉は九千六百四十八葉第二は……

○ 五葉松は松葉五本を以て一葉とす今爰に一本の五葉松ありて
六万七千八百九十一葉ありとせば松葉の数幾本ありや

○ 一葉五百四十二字の写本二千九百四十四葉を……

〔蒸籠〕○ 老蒸籠八十五箇入の饅頭四千八百九十五蒸籠を……

これも、器物を称量に用いる例である。

〔處〕↓〔所〕

○ 壺つの算盤には二か處の一位あるなり……

○ 米倉二十二か處あり……

兵營、土蔵、製造場、机上の球を置いた場所、を数える。

〔行〕○ 机二脚づゝ五行あるときは机の総数幾許あるや

○ 又一行三十五字詰め二千四百七十五行を……

〔袋〕○ 五百五十六匁の大黃を七袋に包まんとす一包に何匁を……

砂糖、麦粉、筆、を数える。

〔足〕○ 下駄十足へ五足を足せば何足となるや

○ 蟹あり川より九十五足にて堤に出て又五十二足にて庭へはひ
込めり川より庭まで何足あるきしや

履物、また、蟹の歩数(六〇七・六六一頁)、蟻の歩数(六一三・六

六四頁)、人の歩数(六一二頁)を数える。

〔軒〕○ 百軒の家に五百人の家族あり一軒の家には何人なるや

〔輛〕○ 一輛の車に米六十四俵を積む十万俵は車何輛に積むや

〔輪〕 ○ ……今此の木毎の花数平均六万四千八百二十七輪ありと……

〔部〕 ○ 一部の価四円六十七銭なる書籍二万三千五百六部の価をとふ

〔間〕 ○ 爰に八疊敷の坐敷十間あり疊の数幾枚あるや

○ 一間に三十三体の佛体あり百一間には何体の佛あるや
座敷、部屋の数を知る。いづれも付訓に「ま」とある。

〔隊〕 ○ 一隊の兵卒は八百人なり三十八隊の兵卒は何人なるや

〔頭〕 ↓〔匹〕

○ 羊九百五十三頭と馬七百六十八頭と牛九百七十九頭あり總計
幾頭なるや

馬、牛、母牛、羊、山羊、綿羊、犬、を数える。

〔類〕 ○ 石盤の上へ廿八顆の果実を画くべし

指数器の顆の数、果物を数える。

〔題〕 ○ 一日に算術四題づゝ学ぶ生徒七人此の生徒の学び得ん題数合
して幾題なりや

して幾題なりや

〔駄〕 ○ 七十五駄の酒を一日に十駄二日に二十七駄三日に八駄四日に
三十駄売りたり残り何程

三十駄売りたり残り何程

○ 七十一駄の薪百六十四円七十二銭なり一駄の価をとふ

〔體〕 ↓〔體〕

○ 西京の三十三間堂の佛の数が三万三千三百三十三體ありて……

〔點〕〔点〕 ○ 小試験の點数すべて七十八點を得たる生徒あり……

○ 「五個の壺へ一点づゝ点をうち循環七回に及び」……○ 然
らば三十五点を五分せば幾点となるや

まず、「第一教」より「第三教」までに「実物の計方」を教えるが、
この後に次のような課題が示されている。

問題

(一) 獸類即ち馬や牛を計ふるには何と唱ふや

答 匹は又頭と云ふ

此時答ふる能はされは匹又は頭と唱ふることを教ふへし

(二) 今予か塗板に画きたる馬を計ふへし

(三) 予の画きたる兔は何程ありや

(四) 左の図中の羊を計ふへし (図中に羊七頭、略)

(五) 鳥類即ち鳩や雀を計ふるには何と唱ふや 答 羽と云ふ

(六) 然れば此図中の雀を計ふべし (図中に雀十二羽、略)

(七) 余が今画きたる雛を計ふべし

(八) 魚の類を計ふるには何と唱ふや 答 尾と云ふ

(九) 今余が画きたる魚を計ふへし

(十) 筆を計ふるには何と唱ふや 答 本と云ふ

(十一) 墨を計ふるには何と唱ふや 答 挺と唱ふ

(十二) 此図中にある傘を計ふへし (図中に傘九本、略)

(十三) 今余が画きたる蠟燭を計ふへし

(十四) 硯を計ふるには何と唱ふや 答 面と唱ふ

(十五) 汝等の前にある机を計ふるには何と唱ふや 答 脚と唱ふ

(十六) 此場中には机何程ありや

(十七) 此場中には何程の腰掛ありや

(十八) 書籍を計ふるには何と云ふや 答 冊は又部と云ふ

(十九) 此図の書籍を計ふへし (図中に本八冊、略)

⑱ 小学初等算書算学実物教授本(山田正一著)(第十一卷、六七七〜七〇六頁)

(二十) 衣類を計ふるには何と云ふや 答 枚は重と云ふ

(二十一) 此図に画きたる衣類を計ふへし (図中に衣類五枚、略)

(二十二) 汝の着たる衣服は何程なりや

(二十三) 足袋下駄の如き凡て履を計ふるには何と云ふや 答 足と云ふ

(二十四) 此図の足袋を計ふへし (図中に足袋六足、略)

(二十五) 此図の米は何程ありや

(二十六) 此場中には何程の生徒ありや

(二十七) 此図の屏風を計ふへし (図中に屏風一双、略)

(二十八) 織物を計ふるには何と唱ふや 答 端と唱ふ

(二十九) 此図の端物は何程なりや

(三十) 物差にて七度計りたる長さを何程と唱ふや

(三十一) 一升杓にて五杯計りたる米を何程と唱ふや

(三十二) 人の年齢を計ふるには何と唱ふや 答 歳を唱ふ

(三十三) 甲童汝の年齢は何程なりや

(三十四) 乙童は如何

(三十五) 家を計ふるには何と云ふや

(三十六) 余か画きたる車を計ふへし

(三十七) 余か画きたる船を計ふへし

(三十八) 余か画きたる鍬を計ふへし

(三十九) 此教場の縦の長は何程そ

(四十) 横は如何

(四十一) 此教場の障子は何程ありや

(四十二) 花を計ふるには何と唱ふや

○右は実物数量の大略を設けしものなれば授業の時日に余りあれば尚進んで種々の実物数量の命名を授くべし
本書は欧米の教科書を翻訳してなったとされるが、これらの助数詞は日本古来のものである。この点に関しては、編者の格別の工夫がなされたのであるうか。実物算重視と共に、助数詞教育の徹底していたことがわかる。

以下に、本書に見える助数詞を掲げる。右に見える用例は、重複を避けて引用しないが、関わりのある項目には「↓*」印を付すこととする。度量衡、年月日などに関する単位、助数詞は省略する。

なお、本書の首部には、「幾本」「幾個」「几个」「三個」のように、右傍に片仮名で和語を表記した例がある。これらは、教師のための口頭用アドバイスのようなものらしい。

「丁」↓*

○ 鋤九丁と鋤三丁にて幾丁となるや……

「人」↓「名」

○ 農夫七人と農女二人にて稲を刈るあり……

小児、男児、女児、男、女、などを数える。

「俵」○ 米九俵と麦三俵とあり米は麦より幾俵多きや

米、麦、炭、を数える。

「個」○ 右の手に持つ檜は幾個ありと思ふや 答 二個なり

数、算盤の木球、鍾、墨、小銃の弾丸、独楽、手毬、帽、茶碗、窓、林檎、檜、梨子、梨、柿、橙、桃、葡萄、栗、蜜柑、金柑、卵を数える。

「冊」○ 書籍五冊と三冊とにて幾冊なるや
修身書、読本、書冊、習字手本、を数える。

〔匹〕 ↓*、〔頭〕

○ 馬六匹と牛四匹にて米を運送するあり其馬と牛とを合せて幾匹なるや 六個と四個との和は何程なりや

牛、馬、牡馬、牝馬、鼠、鼯、雨蛙、蠅、を数える。

〔巻〕 ○ 十巻の書籍を六巻読めは幾巻残るや……

〔名〕 ○ 生徒九名と教師一名にて幾名なりや……

生徒、教師、男子、女子、受檢生、小兒、乳母、などを数える。

〔問〕 ○ 教員其生徒に問題九問を与へしに内五問を答へしと云ふ……

〔回〕 ○ 右の如く指のみを以て数回問答せは……

〔壘〕 ○ 爰に七壘の銘酒あり内六本は空壘なりと云……

〔尾〕 ↓*

○ 鯉九尾と鮒七尾とあり此魚合せて幾尾なりや……

鯉、緋鯉、金魚、鮒、を数える。

〔帖〕 ○ 半紙七帖と美濃紙五帖にて幾帖なるや……

〔度〕 ○ 甲乙の二人にて角力を取りしに十五度取組し内甲は九度勝しと云ふ乙は幾度勝しや

この他、物差で計る度数、池の周りを回る回数、を数える。

〔戸〕 ○ 十七戸の戸数の内八戸は土族にして其余は平民なりと云ふ……

〔所〕 ○ 上着の紋は五ヶ所にして羽織の紋は三ヶ所ありと云ふ……

○ 甲村には土蔵十五箇所乙村には七箇（つぼ）とありと云ふ……

〔杯〕 ↓*

冒頭の例（*）には「五杯」と見える。

〔挺〕 ↓*

○ 墨五挺と二挺とを合すれば幾挺なるや……

〔本〕 ↓*

○ 木綿縫針八本と紺縫針五本あり合せて幾本ありや……

手、拇指、手の指、雨傘、筆、縫針、空壘、壘、松、枯木、を数える。

〔束〕 ○ 薪六束と柴三束あり合せて幾束なりや……

〔杯〕 ↓〔杯〕

〔枚〕 ↓*

○ 障子六枚と兩戸九枚とあり合せて幾枚なりや……

読本（の頁数）、半紙、石盤、を数える。

〔條〕 ○ 此算盤に横に架したる針金（竹）あり此針金は幾條ありや……

〔歳〕 ↓*

〔段〕 ○ 十四段の梯を五段登れば幾段残るや……

○ 七段の稲を五段刈り取れば幾段残るや

〔疊〕 ○ 八疊の座敷え四疊敷の敷物を敷けは幾幾帖残るや

〔端〕 ↓*

○ 縮緬八端と紬六端あり合せて幾端なりや

晒木綿、生木綿、反物、綿布、絹、緋縮緬、紬、を数える。

〔箇〕 ○ 甲村には土蔵十五箇所乙村には……

〔羽〕 ↓*

○ 小鳥二羽と六羽とにて幾羽ありや……

この他、鳩、鳥、鳶、雀、鴨、牝鶏、雛、を数える。

〔脚〕 ↓*

○ 並椅子八脚と上等椅子四脚あり合せて幾脚なりや……

〔艘〕 ↓*

○ 或る港に帆走船九艘と軍艦六艘錠泊せり合せて……

〔足〕 ↓ *

○ 半靴六足と長靴五足あり合せて幾足なるや

〔軒〕 ↓ *

家を数えるものであろう。

〔輪〕 ↓ *

○ 梅の枝に花七輪と蒼三輪あり花は蒼より幾輪多きや……

梅花、菊花、花、を数える。「蒼」も同様。

〔輜〕 ↓ *

○ 一人乗の人力車七輜を雇ふて旅行するあり……

〔部〕 ↓ *

〔重〕 ↓ *

〔鉢〕 ○ 蘭十八鉢と万年青九鉢あり蘭は万年青より幾鉢多きや

〔面〕 ↓ *

〔頭〕 ↓ *、〔匹〕

○ 牛九頭と犢四頭とあり合せて幾頭なりや……

〔顆〕 ○ 地の一顆は数の一個を表するゆへ地の二顆は数の二個を表し

三顆は三個を表するなり

算盤の顆を数える。他に「算盤の顆と云ふ」とのルビが見える。

以上は、『日本教科書大系』の『第十一卷 算数(二)』に収める。

以下は、同『第十二卷 算数(三)』に収める。

(二) 文部大臣の検定を受けた時代(明治中期)

①9 小学尋常科筆算書(中條澄清著) (第十二卷、五〇一—二頁)

卷一に、次のような、「虚数或ハ無名数」と「物数或ハ名数」との別が説かれている。後者は、「物品ノ数ヲ表ハ」すもので、従つて、これには助数詞が添えられることになる。

(1) 以下ニ授ケタル如ク物品ノ数ヲ表ハサルモノヲ虚数或ハ無名数ト云フ又筆数、人数、紙数、家数、杯ヲ表ハシタル諸数ヲ物数或ハ名数ト云フ

算用数字ニテ筆三本ヲ記セハ①人数十六人ヲ記セハ②紙七百二十
①……………3本
②……………16人
③……………720枚
④……………3006軒
六枚ヲ記セハ⑤家三千六軒ヲ記セハ⑥ノ如ク
数ノ後ニ本、人、枚、軒、ノ一字宛ヲ記スヘキナリ

此例ニ準ヒ算用数字ニテ左ノ諸数ヲ記セ

(116) 筆二十八本 (117) 生徒二百十五人

(118) 書物二十八冊 (119) 金二千六百七十五円

(120) 紙二千六百九十枚 (121) 金九万六千円

(中略)

物数ハ總ヘテ右ノ如ク記スヘキナレトモ特別ノ時ニアラサレハ算用数字ノ後ニ一字ヲ記スコトヲ略シ単タ虚数ノ如ク記スナリ

以下に、その他、本文中に見える助数詞を整理する。但し、年月日、年齢、及び、度量衡に関するものは省略する。

〔↑〕 ○ 權衡通法ノ法数ハ皆↑ナリ

「一ヶ月」「五十年」「三ヶ所」といった用法もある。

〔人〕○ 小学校男生二百人ト女生八十九人アリ……

生徒、書生、子供、兄弟、人足、職人、工夫、大工、商人、兵士、株主、貧者、人口、その他を数える。

〔倍〕○ 一數ヲ二度集タル數ヲ其二倍ト云ヒ三度集タル數ヲ其三倍ト云ヒ四度集メタル數ヲ其四倍ト云ヒ……

〔俵〕○ 米一俵ノ量ハ四斗或ハ四斗二升或ハ三斗五升等ニシテ一定セスノ 麥一俵ノ量モ亦タ五斗、四斗等ニシテ一定セスノ

大豆、小豆一俵ノ量モ亦タ四斗或ハ五斗等ニシテ一定セス

〔俵〕は、米、麥、小麦、大豆、小豆、黍、粟に用いる。例は多い。

〔個〕○ 例ヘハ三千八百七十六個ハ一ノ位ノ一個六ツト、十ノ位ノ一個七ツト、百ノ位ノ一個八ツト、千ノ位ノ一個三ツノ集マリ……

數、また、金の指輪、などを数える。

〔冊〕○ ……一冊二十五千ノ書物ヲ売レハ……

〔函〕↓〔箱〕

○ 一函二十五斤入りノ茶三十函ハ何斤ナリヤ

茶に用いた例ばかりである。但し、「箱」も用いる。

〔切〕○ 長サ若干幅三尺厚サ二尺ノ石四十二切アレハ其長サ何程ナリヤ

〔前〕○ 十人前ニ付四十五錢ノ椀四十人前ハ何程ナリヤ

○ 十人前ニ付六十八錢五釐ノ膳三十五人前ハ何程ナリヤ

助數詞に準ずるものと見ておきたい。

〔包〕○ 金粉二百三十目ヲ一匁包ニ分ツトキハ幾包ナリヤ

朱、茶、末茶、銅貨、を数える。

〔匹〕↓〔頭〕

○ 一匹六円ノ絹七匹ノ価ヲ以テ一匹二十八円ノ牛二匹ノ代ヲ……

〔頭〕より多く用いられ、馬、牛、豚、及び、絹、絹布、米沢織、などを数える。馬には、「匹」の他、「頭」も用いられている。

〔区〕○ 塩田四万二千六十八歩アリ之ヲ十区ニ平分スレハ一区ニ付何町ツ、ナリヤ

町ツ、ナリヤ

〔卷〕○ 一卷ノ長サ三十九間ニテ一間二円四十五錢ノ羅紗四卷買ヘハ

〔名〕○ 有志者三百五十五名ヨリ学校新築費ヲ出スニ……

甲・乙（人）、株主、工夫、を数える。

〔回〕○ 砂糖二十八挺宛五十六回輸出スレハ其挺數何程ナリヤ

○ ……三間竿ヲ以テ其長ヲ量ルニ二十八回ト残り一間アリ……

〔回〕○ 周圍五尺アル車輪二千九百五十五回轉シテ残り三尺アル道路ノ長サハ何程ナリヤ

路ノ長サハ何程ナリヤ

〔字〕○ 半面二千三百七十五字アル雜誌五枚ノ字數ハ何程ナリヤ

〔對〕○ 筆一對ハ二本ナリ水筆九百九十九對ハ何本ナリヤ

〔尾〕○ 一籠九尾入りノ魚六百七十八籠ハ何尾ナリヤ

魚、鯛、を数える。

〔帖〕○ 美濃紙一帖ハ六錢ノ時此価ノ三ツ割ハ半紙一帖ノ価ニシテ半切一帖ハ半紙ノ四倍ナレハ半紙ト半切ノ価各何錢ナリヤ

切一帖ハ半紙ノ四倍ナレハ半紙ト半切ノ価各何錢ナリヤ

〔度〕○ 石二ツハ一ツヲ二度集メタル數ナリ

〔所〕○ 一ヶ所ノ価五万五千八百七十三円ノ塩田三ヶ所買ヘハ……

塩田、牧場、を数える。「五ヶ村」の類もこれに準ずるか。

〔把〕○ 梅枝二百十本アリ五本宛ヲ一把トスレハ何把ナリヤ

〔挺〕↓〔樽〕〔駄〕

○ 砂糖六万二千七百八十八挺ノ内四万八千六百九十九挺売レハ……
墨、また、砂糖、酒、味噌、を数える。卷四の命法の条に、

○ 酒一挺ハ三斗五升樽ニシテ一駄ハ通常二挺ナリ
○ 味噌一挺ハ通常二十目目ナリ

と見える。「ノ」は、「貫ノ字ヲ略シテ」書いたもの(七四頁)。

〔掛〕○ 割木或ハ薪一掛ノ目方ハ通常二十目目ナリ

〔本〕○ 筆三本ト五本ハ何本ナリヤ

檜苗、杉苗、桑苗、松苗、松、松木、杉、檜、栗、竹、梅枝、桜、梨、
杭、立木、材木、楊枝、鉛筆、筆、真書筆、水筆、扇子、团扇、傘、針、
徳利、を数える。

〔束〕○ 一束二十一錢ノ半紙六十五束ノ価ハ何程ナリヤ

〔杯〕○ ……故ニ一斗榼ニテ十杯量レハ一石ヲ得ルト雖トモ……

〔枚〕○ 百枚ニ付八錢ノ半切一枚ノ価ハ何程ナリヤ

但半切、美濃紙、唐紙、白紙、薄用、雁皮紙ハ九十六枚ヲ
以テ百枚ト称ルナリ之ヲ九六百ト云フ

紙、唐紙、郵便葉書、往復葉書、郵便切手、錢、銅貨、銀貨、半円札、
石板、櫛、糸巻、前掛、鏡、畳、を数える。

〔株〕○ ……一株五十円ノ銀行株ヲ買ントスレハ幾株ナリヤ

〔棟〕○ 一棟ニ付一ヶ月蔵敷料……ノ土蔵四棟ツ、借レハ……

〔樽〕↓〔挺〕

○ ……下酒千六百四十九樽売レリ此樽数ノ何程ナリヤ

酒を数えた例しか見えない。卷四に、「酒、醬油、灯油、等一樽ノ量
モ亦タ一定セス四斗樽、一斗樽、五升樽、二升樽、一升樽、等ナリノ
酒一挺ハ三斗五升樽ニシテ一駄ハ通常二挺ナリ」とある。

〔種〕○ 榼ハ此名称ノ如ク悉クアルニ非ス穀量ニ七種水量ニ五種ノ榼
アリ……

「穀量」は、米、麦、小麦、大豆、小豆、黍、粟、稗、蕎麦、麦粉な
どの穀物の量、「水量」は、清酒、焼酎、味淋、酢、醬油、灯油、石炭
油など、水物の量を云う。茶、通用金にも「種」を用いる。

〔玉〕○ 五匁玉ノ刻煙草十五玉ヲ百目ニ付二十九錢七釐ノ割合ニテ
刻煙草を数えるもので、「目方百目ニ付三十二錢六釐ノ刻煙草十匁玉
ノ価ハ何程ナリヤ」とも見える。

〔端〕○ ……一端六円ノ糸織千二百端ヲ……

糸織、布、結城縞ツツキ、暑袷カクシ、仙台平、浴衣、を数える。卷四に、「呉服
端物一端ノ長サハ鯨尺二丈八尺、二丈九尺等ニシテ一定セスノ絹布一
匹ハ二端ヲ云フ」と見える。

〔筋〕○ 手拭一筋ニ付二尺五寸五分 二百五十筋
積を求めよと云う。手拭は、「筋」で数える。

〔箱〕↓〔函〕

○ 一箱百顆入りノ蜜柑九箱ハ何顆ナリヤ

茶、蜜柑、を数える。

〔籠〕○ 一籠九尾入りノ魚六百七十八籠ハ何尾ナリヤ

魚、鱒、柿、枇杷、桃、を数える。

〔粒〕○ 一斤二十三錢ノ金米糖アリ一錢ニ付十五粒宛ナレハ一粒ノ目

方及一斤ノ粒数各何程ナリヤ

〔組〕○ 唾鈴二ツハ一組ナレハ十八ハ何組ナリヤ

この他、洋服、人足、を数える。

〔群〕○ 一群二百八十五匹ノ牛八群ハ何匹ナリヤ

牛、馬（の群）を数える。

〔羽〕○ 鳥二羽ト三羽ト一羽ハ何羽ナリヤ
鳥、雁、を数える。

〔艘〕○ ……七万四千円ノ汽船四艘ト…
汽船、小蒸汽船、船、を数える。

〔足〕○ 或入金九十八銭ニテ足袋七足買ヒ…

〔軒〕○ 家一軒を九百四十円ニ売り…
家、戸数、を数える。

〔輛〕○ ……人力車十三輛ヲ三十九円ノ利ヲ得テ売レリ一輛ノ価…
人力車、馬車、を数える。

〔通〕○ 郵便書状四千通ニテ目方十ノ五百目アレハ…
地券、郵便書状、を数える。

〔部〕○ 一部十八冊ノ書物五部ハ何冊ナリヤ

〔重〕○ 善吉簞笥十三重買ヒ其内九重ヲ七十二円ニ売り…

〔隊〕○ 一隊千八百五十人ノ兵士九隊ノ人数ハ何人ナリヤ

〔面〕○ ……十二銭ニテ硯一面買ヘリ…

〔頭〕↓〔匹〕

○ 一頭百八十円ノ馬ヲ二百五円ニテ二十八頭又一頭二十七円ノ
牛ヲ二十一円ニテ千二百六十二頭売レハ差引何円ノ損益ナリヤ

馬、牛、を数えるが、用例は少ない。

〔顆〕○ 菓園ニ梨千二百八十六顆ト桃五千八百九顆ト林檎二百八十五
顆ト柿二千八百八十一顆ノ実ヲ結ヘリ此菓実ノ總数何程ナリヤ

梨、桃、林檎、柿、杏、蜜柑、を数える。

〔駄〕○ 酒一駄ハ何升ナリヤ

先に、「酒一挺」は三斗五升樽、「一駄」は、通常、二挺と見える。

〔つ〕○ 桃三ツト四ツト一ツハ幾ツナリヤ
杏、桃、梨、石、盃、唾鈴、手桶、帽子、などを数える。また、「此

価ノ三ツ割ハ」、「丙ハ乙ノ四ツ割ヨリ二百円少ナク」、「竹ノ長サ…七
ツ截リ」のような用法がある。

②⑥ 尋常算教科書（竹貫登代多著）（第十二巻、一一三〜一二四頁）

本書では、見出し項目の漢字と漢数字とを除く、すべての漢字にはル
ビ（片仮名）が振られている。一応の助数詞が見えてはいるが、度量衡
貨幣等ほどに多くはない。以下に、列挙する（年月日等を省く）。

〔人〕○ 男兒二十七人ト女兒五十二人ト寄セラバ兒童ガ幾人ニナリ
マスカ。

この他、人、童子、生徒、男子、女子、兄弟、職工、大工、を数える。

〔倍〕○ 十六ヲ六倍スレバ幾何ニナリマスカ。

〔俵〕○ 炭四十九俵ニ炭三十九俵ヲ足セバ炭ガ幾俵ニナリマスカ。

米、麦、豆、炭、鹽、を数える。

〔個〕↓〔箇〕

〔包〕○ 煙草商アリ煙草五貫八百八十匁ヲ四十匁宛ニ包ミ一包ヲ十九
銭宛ニ売ラバ金幾何ヲ得ルカ。
〔冊〕○ 一冊一錢六厘ノ帳簿ヲ二冊買フニハ幾錢イリマスカ。…

書籍、帳簿、を数える。

〔匹〕↓〔疋〕

〔字〕○ 一枚ノ紙ニ二十八字宛字ヲ書ケバ七枚ノ紙ニハ幾ツ字ガ書ケ
ルカ。

〔帖〕○ 美濃紙一帖ハ四十八枚ナリ、五百七十六枚ハ幾帖ナルカ。：

美濃紙、半紙を数えるが、「帖」「帖」の両様の付訓が見える。

〔度〕○ 表ヲ四斗八升宛三度用ヘバ其用ヒシ表ハ幾石ナルカ。

〔挺〕↓〔挺〕

○ 墨三十五挺ト墨四十三挺トヲ合セバ墨ガ幾挺ニナリマスカ。

〔本〕○ 団子七十二箇ヲ十八本ノ串ニ挿セバ一本ニ幾ツ宛挿セマスカ。

筆、石筆、白墨、鉛筆、(鼠の)尾、(雀の)足、(犬の)足、(猫の)

足、(鳥の)足、(手の)指、胡瓜、白瓜、胡蘿蔔、牛蒡、桑、桑苗、桜

柳、柱、抗(杭)、蝙蝠傘、障子、巻煙草、などを数える。

〔枚〕○ 一枚ノ袋ニ筆ヲ十本宛入レレバ七枚ノ袋ニ筆ガ幾本……

この他、紙、半紙、美濃紙、一厘錢、二錢銀貨、十錢銀貨、郵便はが

き、郵便切手、書籍(の頁)、石板、板、皿、などを数える。

〔挺〕↓〔挺〕

○ 一箱四十八挺入の蠟燭十五箱ニハ蠟燭ガ幾挺アルカ。……

墨、蠟燭、を数える。「挺」「挺」の間に用法差はないらしい。

〔樽〕○ 一樽八升三合入ノ醬油十二樽ニハ醬油ガ幾升アルカ。……

樽に入った、醬油、味噌、砂糖、酒、を数える。

〔疊〕○ 縦九間横八間ノ坐敷ニ一疊ニ付七十五錢ノ疊ヲ敷クニハ……

〔疋〕○ 馬ハ二十八疋牛ハ馬ヨリ三十四疋多ケレバ牛ハ幾疋……

馬、牛、黒犬、白犬、犬、猫、猿、狐、鼠、蛙、金魚、蜻蛉、蜚、を

数える。「頭」は、使用されていないようである。

〔箇〕○ 鶏卵九十八箇ヨリ二十五箇ヲ引ケバ後ニ鶏卵ガ幾箇残り……

他に、(数)、また、蜜柑、桃、栗、梨、柿、茄子、団子、鞠、独楽、

などを数える。付訓には、常に「箇」とある。

〔箱〕○ 一箱二百本入ノ白墨五箱ト別ニ七十六本トアリ……

蜜柑、鶏卵、蠟燭、マッチ、白墨、を数える。

〔組〕○ 生徒……ヲ四十八人宛一組ニスレバ幾組ニナルカ。

〔羽〕○ 鳥ハ三十五羽居テ雀ハ鳥ヨリ四十八羽多ク居レバ……

鳥、雀、鳩、燕、牝鶏、を数える。

〔脚〕○ 一脚六十八錢ノ机九十八脚ヲ買フニハ金幾何ヲ要スルカ。

〔輛〕○ 米三千六百俵ヲ運送スルニ車一輛ニ六俵宛ヲ積ミ車十二輛ヲ

用フレバ幾度ニシテ運ビ尽スベキカ。

〔ツ〕○ 梨九十箇ヲ一ツノ籠ニ六ツ宛入レルニハ……

果物類や籠、書籍、本箱、車、その他、多様なものを数える。

② 高等算教科書(竹貫登代多著)(第十二卷、一三五〜三三三頁)

本書も、度量衡等に関するものは多いが、助数詞は多くない。

〔人〕○ 甲、乙、丙ノ三人資本ヲ合シテ商店ヲ開クアリ、……

生徒、童子、農夫、職工、左官、大工、工夫、人夫、女工、を数える

〔俵〕○ 米十一石二斗八升ヲ四斗八升入ノ俵ニ作ルトキハ幾俵ニナル

カ。又麦十八石八斗ヲ五斗入ノ俵ニ作ルトキハ幾俵ニナルカ。

米、麦、大麦、炭、鹽、を数える。

〔倍〕○ 三百六十五箇ハ幾何ノ十二倍半ニ当ルカ。

〔包〕○ ……又問フ其釘ヲ百二十五本宛紙ニ包ムトキハ幾包ニナルカ

〔匹〕↓〔疋〕

○ 蛙、溝ノ東西ニ分レテ戦フアリ、東軍ハ三千六百八十二匹、

西軍ハ二千九百六十四匹ナリト云フ、……

〔挺〕○ 一挺ノ価金五錢六分ノ五ニ当ル墨十八挺買フニハ……

[本] ○ 棒砂糖七本アリ其重サ二十六斤三十六両一匁アリト云フ、
松、杉、檜、電信柱、鉛筆、釘、などを数える。

[束] ○ 馬ヲ飼フニ十五日間ニ秣草三十五束ヲ与フレバ……
薪六束と柴三束あり合せて幾束なりや……

[枚] ○ 新聞社アリ日々一万枚宛ノ新聞紙ヲ……

一厘銭、板、四分板、書籍ノ下読、(写字生の書写枚数)、植字職工
(の植字枚数)、その他を数える。

[樽] ○ 四日間ニ一樽ヲ小売スル上酒ヲ十五日間小売スルトキハ……

[疋] ↓ [匹]

○ 牛馬商アリ一疋ニ付金三十二円ノ馬百七十一疋売リテ一疋ニ
付金五十七円ノ牛ヲ買フトキハ牛幾疋ヲ買ヒ得ルカ。

[種] ○ 複名数トハ二種以上ノ数基ヲ以テ計ヘタル数ナリ。

[箇] ○ ……一箱ニ三百六十五箇入ノ鶏卵二十三箱ト別ニ二百十箇ヲ……

桃、梨、蜜柑、柿、林檎、(注水用の) 筍、などを数える。

[箱] ○ 葛粉八十一箱ノ重サ七十三斤三十六両二匁ナリ……
箱入りの、鶏卵、蜜柑、葛粉などを数える。

[袋] ○ 一袋ノ重サ二十五両三匁ノ菜種七十二袋アリ……

[輛] ○ 牛車一輛ハ貨物五十貫ヲ積ミ馬車一輛ハ貨物三十六貫ヲ積ム
ト云フ、問フ馬車七十五輛ニテ運ブベキ貨物ハ牛車幾輛ニテ……